

九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No. 330

2019(令和元)年 5月3日(金)発行



2019年5月1日から新元号は「令和」に 学者たちの意見は

▶元号は君主が時間まで支配するという中国の思想に基づくもの。選定議論の過程も一切公表せず、閉鎖的だ。(横田耕一九州大名誉教授) ▶「令和」は『万葉集』が典拠というが、中国の書家王羲之の『蘭亭序』や、中国の詩文集の『文選』を下敷きにしている。(小島毅東大教授) ▶問題は、政権が元号発表を政治ショー化したことだ。(思想家内田 樹) ▶元号は、安倍政権にとって政権維持・強化の「政治玩具」のようだ。(水島朝穂早大教授) ■朝日川柳より ・「安」がなく人々胸を撫でおろし ・命令の令まず思た昭和の子

アメリカの戦争に自衛隊が引きずり込まれる危険性がある

●日本電波ニュース社から、「9条改憲って何？」というDVDが発売されました。自民党が行おうとしている改憲について、3人の専門家が分かりやすく解説しています。個人でも、学習用としても最適です。

《学習用DVD『9条改憲って何？』(19分)より》

9条に「自衛隊」を明記すると、新条文が優先する

伊藤 真 (伊藤塾塾長・弁護士・法学館憲法研究所所長)



- 9条に「自衛隊」「国防」を明記すると、新しい条文が優先し憲法全体も変わり、人権が制限されることになる。
- 自衛隊の明記と2015年に成立させた「安保法制・戦争法」で集団的自衛権をもとに、アメリカが世界中で続けている戦争に自衛隊が引きずり込まれる危険が生まれる。

■さらに自民党は、緊急事態条項、つまり戦争条項を憲法に追加し、選挙を停止したりして内閣で自由に法令を制定できるようにし、着々「戦争できる国」の準備を進めている。

アメリカの圧力に歯止めをかけることができなくなる

柳沢 協二(元防衛審議官・元内閣官房副長官補・国際地政学研究所理事長)



- 9条を変えればアメリカの圧力に歯止めをかけることができなくなる。
- アメリカは繰り返し自衛隊の海外派兵を求め、その都度9条の改憲が浮上してきた。でもこれまでは9条の効力と国民の力で押しとどめてきた。

アメリカに都合良く「自衛隊」が戦うようになる

井筒 高雄(元自衛隊レンジャー隊員・ベテランズ・フォー・ピース・ジャパン代表)



- 万が一北朝鮮の核ミサイルが発射された場合、迎撃はおよそ不可能で、半径70km以内が壊滅状態になってしまう。
- ガイドラインで日本が主体的に戦うという取り決めがあり、アメリカにとって都合良く自衛隊が戦わなければならない事態にもなる。

また、DVD「憲法と自衛隊」も<下記>のように販売中です。3名の専門家、東京新聞論説兼編集委員で自衛隊を30年近く取材の半田滋氏、首都大学東京法学部教授で憲法学者の木村草太氏、上智大学教授・市民連合呼びかけ人の中野晃一氏が、あつく語っています。

○この2種の学習用DVDは：各19分・18分／1枚500円／取り扱い：日本電波ニュース社
／申し込み TEL03-5765-6810・FAX03-5765-0540・E-mail order@ndn-news.co.jp

＜国策と、戦争の不条理を訴える3つの記念館＞

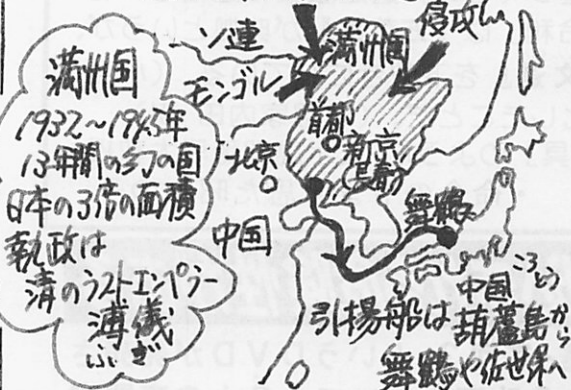
リニューアルした広島原爆資料館が話題になっていますが、この3記念館も今注目です。

満蒙開拓平和記念館

長野県下伊那郡阿智村駒場711番地10

全国最多で満州国へ開拓農民を送った長野県に 民間の施設として2013年開館

1945年8月9日ソ連軍の



満州国とは関東軍（日本陸軍の満州部隊）が先導し、1932（昭和7）年3月建国の日本の傀儡（かいらい・ロボット）国家。13年間、1945（昭和20）年日本の敗戦で消滅します。

満蒙開拓団は満州と内モンゴルに送り出された農業の移民団。昭和恐慌の日本は1936（昭和11）年に100万戸の農民移住計画を国策として推進。開拓団の農民27万人と、14、15歳の青少年義勇軍8万人が満州国に送り出された。

全国で移住農民が一番多かったのが長野県、2位山形県、3位熊本県、そして福島県は第4位で開拓団に9576人、義勇軍に3097人が送り出された。貧しさゆえの移住です。

しかし敗戦直前の1945（昭和20）年8月9日、ソ連軍が満州に侵攻。成人男子は軍に召集されていて、開拓団に残されていた女、子ども、老人たちの悲惨な逃避行が始まる。略奪、襲撃、強姦、集団自決、戦後の収容所生活での飢えや極寒、病気などで、開拓団27万人のうち8万人が命を落とし、多くの子どもたちが中国残留孤児となった。日本人を守るべき70万の関東軍は、いち早く逃亡し帰国。国策で移民させ、当時の指導者は救出どころか見捨てるありさまで、現在の原発事故とまるで同じです。

戦後に帰国できても、今度は全国の悪条件の山間部に開拓民として送り込まれます。福島県の阿武隈高地に入植し開墾に励んで60年。なんとか安定した生活をつかんだ矢先、今回の原発事故で国策による再々度の犠牲を強いられます。飯館村、浪江町津島、葛尾村などには、無責任な国策に翻弄された高齢者も多く、現在もさまざまな凄絶な状況が進行中で、ご存知のとおりです。

舞鶴引揚記念館

京都府舞鶴市字平1584番地

満州からの農民や、シベリア抑留の引揚げ者の日本唯一の資料館

戦後、中国大陸に進駐していた日本軍人や軍属、一般人の本土への引揚げ、またソ連軍の捕虜となりシベリアに抑留されていた復員兵、さらに日本に在留していた中国・朝鮮人送還の、最大の指定港が舞鶴でした。

引揚げは1945（昭和20）年10月から1958（昭和33）年9月まで13年間66万人に及び。帰国を待つ家族と引揚げ者との悲喜交々の場となり、「岸壁の母」のような悲話も数多く生まれました。記念館は1988（昭和63）年に設立され、2015年には収蔵品570点がユネスコ記憶遺産に登録された。



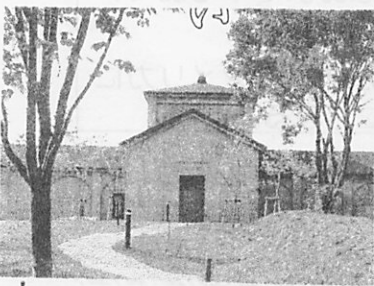
戦没画学生慰霊美術館「無言館」

長野県上田市古安曾字山王山3462

“口をつぐめ、眸をあけよ 見えぬものを見、聞こえぬ声をきくために”

アジア・太平洋戦争で、志半ばで戦地で命を落とした画学生の、500余点の遺作や遺品を展示の美術館。「無言館」とは、絵画は何も語らず「無言」でも多くを語りかけ、客も絵画を見て「無言」になることから命名された。

館主の窪島誠一郎さん（父は水上勉氏）と画家の野見山暁治さんが、全国の戦没画学生の遺族を探して遺作を蒐集し、1997（平成9）年5月に開館。2008（平成20）年9月には第二展示館「傷ついた画布のドーム」がオープン。浅間山を望む丘の上に、中世ヨーロッパの僧院のような美術館で、訪問され、涙された方も多いことでしょう。＜本会報No.65・68でも紹介＞



○東日本大震災の教訓を伝える施設は、福島県内では「相馬市伝承鎮魂祈念館」をはじめ20カ所ほどが登録。でも津波被災だけでなく、原発事故に関する施設はどうか。富岡町の「東京電力廃炉資料館」など原発を推進する側でなく、被災民の立場でその不条理を訴える施設が必要なのはです。